

一九七七年二月一〇日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポ幡ヶ谷九〇四 電話(03)337714649

FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 東京労金本店 No.1154163

購読料 月額 600円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

「生活の国有化」要求するとき

伊勢 太郎……………2

勝ちたい！一日も早く安心した生活を取り戻したい

千葉真貴子……………3

国労「改革法承認」で臨時大会

編集部……………5

「新ガイドライン」と「北朝鮮脅威」論(下)

若林ひろし……………6

戦略目標は同じ、異なる追求方法

北朝鮮脅威論から卒業せよ

コンボをめぐるクリントンの混迷

稲村 守……………10

ドイツのようなやり方見習え

京都総評が失業者にアンケート

言語道断！公務員ヘルパー切り捨て

神戸市六五名のを職種転換へ

矛盾多い介護保険

滝野嘉津子……………14

資料1 第一号被保険者の所得段階別保険料の設定方法(案)

資料2 要介護度と支給限度額……………15

◇投稿◇

一人で百回動くとき自覚したときから……………16

読者からのおたより……………16

旬刊 社会通信

NO. 731

一九九九年三月二二日号

一九九九年三月二二日発行
(毎月一日・二二日・三十一日三回発行)

「生活の国有化」要求するとき

日本長期信用銀行、日本債券信用銀行の「特別公的管理」(国有化)につき、大手一五
行の「国有化」が決定した。投入金額は七兆四五九二億円に上る。

経済戦略会議「最終報告」は、「不良債権処理」金融再生」の枠組みは完了との前提の
もと①官主導の経済運営システムを市場原理が主役となる「創造的な競争社会」に組みか
える、②「小さな政府」を追求すべきで、社会保障システムは自己責任を土台すると、
今後十年間の経済シナリオを作成した。そこでの二五〇項目を超える規制緩和策は、日経
連が昨年末改定し、大きな課題とした「ブルーバードプラン」中の構造改革基本法の内容
ともいうべきものである。

「創造的な競争社会」、「小さな政府」と巨大銀行への莫大な税金投入とは根本から矛盾
する。たとえば、さくら銀行には八千億円の税金が投入される。これによって、さくら銀
行の政府資本保有比率は五四・四%にも達する。これは、さくら銀行が民間銀行ではなく、
半国有化されたことを意味する。その他銀行はどうか。富士五〇%、大和六四・九%、三
井信託五二・五%、東洋信託四五・三%、中央信託銀行はじつに七五・二%と実質「国有
化」されたのと同じである。

税金投入で「不良債権」金融恐慌」は克服できるのだろうか。バンクとしての郵便局へ
の資金の大量移動、日本の金融業の実態から、とてもそうは思えない。というのは、金融
機関救済の実態は――

1、富の国民から大銀行への移転――これには①六〇兆円の税金投入、②〇・二五%という
世界資本主義史上最低の公定歩合、③「ゼロ金利」とされた短期資金利率がある。
2、低金利で各種投資団体――これには①政府・企業の年金運用、②生・損保、③各種財団
法人等――の資金運用は破たんの一途をたどっている。

3、これらの結果、巨大銀行、巨大会社から不動産の投げ売りが始まった。これは地価・
不動産価格をさらに下落させ、結果として不良債権は増えつづける。さらに深刻なのは、
これら一連の銀行救済策で赤字国債が一挙に倍増し、国債が「不良債権」となる可能性が
強まっていること、さらにはアメリカンダブル崩壊は時間の問題であり、これとともに莫
大なドル資産(アメリカ国債、外資準備、ドル預金等)が不良債権と化することだ。

報道では億だ兆だと我われの想像も及ばない巨額な金額が右に左に飛び交っている。一
兆円とはどれだけのお金なのか。毎日百万円づつ使って一兆円を使い終えるにはどれだけ
の歳月が必要になるのだろうか。一日〓百万円だから十日で一千万円、百日でようやくと
一億円。一年で三億六千五百万円となる。くる日もくる日も一日〓百万円を使い、一兆円
を使い終えるにはなんと二千七百四十年もかかるのだ。今日から使い始めなんと縄文時代
晩期にまで逆上るのだ。

過日、ある労働組合で学習会をもった。彼らの平均年収は五〇歳前後で五百万円。一兆
円は平均労働者の年収の二〇万年分。大昔も大昔、なんと類人猿のアウストラロピテクス
の時代にまで逆上る。われわれの生活を守り、確保するためにも、「生活の国有化」を求
める時期に入ったのではなからうか。

(伊勢 太郎)

勝ちたい！一日も早く安心した生活を取り戻したい

東京地裁判決は絶対に認められません

昨年五月二八日 東京地裁から労働委員会命令取り消す、常識では考えられない不当な判決が出され八ヶ月が経ちました。

自分では大きな期待を膨らませないよう気構えはもっていたつもりでしたが、テレビに映し出された「国労敗訴」の文字を見た瞬間、自分の目を疑いました。なぜこんな判決なのかと信じられず、呆然とし、何も考えられない状態でした。九九%勝利と言われる言葉を鵜呑みにし、期待感や願望だけで傍観していたのではなく、私たち家族も地域に入り「東京地裁に公正な判決を求める署名」のお願いを一軒一軒回り、また親・兄弟も知人・職場などに署名をお願いしてくれたりしました。地域の方々から「頑張ってくださいね」と暖かい言葉をかけて戴き、「よし頑張ろう」と取り組みに集中することができ、一〇〇万を一筆でも多く越えるようにしようという気持ちも高まって行きました。自らが動き、世論の高まりを肌で感じ、必ず公正な判決が出されると確信しました。

しかし、一筆一筆に込められた思いや私たちが受けてきた悲痛な実態までも東京地裁が下した不当な判決で切り捨てられたようで、腹の底から怒りが込み上げました。

子ども達も、昨年・一昨年と運輸省・労働省・東京地裁へ「お父さんをJ.Rに戻してください」と訴える上京行動に参加してきただけに、自分たちの思いが必ず伝わる。お父さんの正しさが認められると信じていました。それだけに子どもたちの心の中は私たちが思う以上の痛みを感じていました。

当日は子ども同士で話し合っていたり、学校から帰るなり「ただいま」ではなく「どうだったの」と言う言葉が先でした。家族も戸惑い、気持ち沈んでいるままでどう説明すればいいのか分からず、「だめだった」とだけしか言えませんでした。

「じゃあ、もつと頑張らなきゃならないということでしょ」と言う子ども。テレビを食い入るように見つめ「お父さんがかわいそう」と涙を流す子ども。受け止め方は様々ですが、私たちと同じ怒りを感じています。

地域やアルバイト先でも、なぜこんな判決なのかと憤りの声上がり、全国の仲間から怒りと力強い励ましの言葉が次々と届きました。その一言一言に込められている仲間の思いを考えたとき、私たちだけの問題ではないんだと、十二年の闘いの重みをあらためて気づかされました。

年老いた親、子どものがんばり思うと悔しい

闘争団結成当初を振り返ると、家庭を任されている家族にとつて、賃金ではなく貸し付けを受けるということをするには理解出来ませんでした。何度も説明を受けるうちに、闘争団が一つの家族として生活し闘って行くことが必要なんだということが分かりました。貸し付け額を申告するときは、どこをどうやって切り詰めるか頭を悩ませ、家族同士、時には愚痴になりながら、お互いに工夫していると話を話し合いました。小さな子どもにも「お父さんだけが働いたお金じゃなく、みんなのお父さんも一緒に頑張って作っている

お金だから、大切に使わなければならぬんだよ」と言つて聞かせましたが、そう説明しても欲しいおやつやおもちやから離れず、そのたびに「お父さんがJ.Rに戻ったらね」と言いながら、なぜこんな小さな子どもにまで我慢をさせなければならぬのかと悔しくてなりませんでした。小さかった子どもたちも今では、新聞配達をしたりお年玉を貯めたりして、親に少しでも負担をかけないように、自分で必要なものを買おうと協力してくれるようになりました。子どもたちは明るく、時には私たちが教えられることがあるほど、素直に大きく成長してくれています。親に手を引かれ集会に行き「お父さんをJ.Rに戻せ」と大きな声で訴え、「頑張ろう」と小さなこぶしを上げる。小さな子どもたちの姿が、今でも鮮明に焼き付いています。心配をかけ続けている年老いた親や、息子の「J.R復帰」を見ず、心残りのまま他界した親のことを思うと、一日も早く安心させたい。そして、子どもたちにもJ.Rで働くお父さんの姿を見せたい、という思いが一層強くなります。闘いの中で病に倒れた仲間。家族を残し、闘い半ばで他界した仲間の無念な思いは言い表せないほどの悔しさです。

音成子府闘争団は八年前「労働者協同組合」を設立しました。昨年音成子府村は人口が一三〇〇人を切り、全道一小さな村になりました。地域おこしという目的も含まれていますが、働く場がほとんどない音成子府で自分たちの事業体で、全員が働けるようになることが家族の願いでもあり、闘い続ける条件を作り上げていくことになると思つています。決して運営は簡単なものではありませんが、闘いと生活の基盤を強めるために、「J.R復帰」の願いを込めて販売し、闘いを詰めようと頑張つています。

夫たちは国労に誇りをもって闘っている

判決後、追い打ちをかけるように運輸省・自民党から解決に向けての条件が示され、敵の大きさ・力、狙いをまざまざと見せつけられました。

そして全国大会以降、一日も早い解決のためにとカラストチャンスという言葉まで出され、改革法の承認を巡つて議論が続いていますが、私たち家族にはどう受け止めればよいのか正直分かりません。でも、私たちは、夫が不当な差別・選別によって仕事を奪われ、屈辱的な扱いを受け、怠け者のレッテルを貼られたうえにポロ切れを捨てるように、二度も首切りされたことを決して忘れることも、許すこともできないんです。

清算事業団を解雇されたとき、夫は親や兄弟から「国を相手に闘うなんて無理な話だ。家族のことも考えて再就職をしろ」と、再三言われました。しかし、夫達は国労組合員である誇りを持って、自分たちは不当に解雇されたことを許さないと闘う道を選んだのです。そして、自活体制を固め闘つて来ました。寒い大雪の中も、家族と離れての本州のアルバイトも自分の任務としてやり抜いて来ました。

この十二年、私たち家族も夫の正しさを信じ、地元J.R復帰に向かって進んで来ました。しかし、私はいろいろな話を耳にすると「私達の要求を切り下げなければならぬのか」「闘争団の要求が置き去りにされ、国労が違うところへ進んで行くのではないか」と不安でなりません。

そんな不安を私たちが抱えている中、子ども達は「団結旅行に行き、何事にもガンパルぞという気持ちになる。僕が甲子園に行くという夢を持てるのも、父や母を支援してくれ

ている多くの皆さんのお陰だと思う」、「お父さんが首を切られてからすぐ長くなるけれど、支援を続けて下さる事はすごいことだと思う」とカンパをして下さっている共闘の皆さんへお礼の作文を書きました。

その子どもの純粋な気持ちに、国労の闘いは全国の多くの仲間の支えがあつての十二年だと教えられ、そして闘いの中で味わつてきた、語り尽くせない苦しみ・悲しみ・悔しさを思うと、決してこの十二年の年月を無駄にする解決はしたくはありません。

私たちは「何としても勝ちたい」それだけです

苦しいときだからこそ、気持ちを一つにして闘うことが必要なのではないでしょうか。心から闘つて来てよかつたと言えるように、一つ一つの取り組みをしっかりとやりきることが、一日も早い解決になると思つています。私たちは、政府・ＪＲに責任を取らせるために闘つて来ました。曖昧な解決を求めて闘つて来た訳ではありません。「地元ＪＲ復帰」を手にするまで、私たち家族は、夫たち・子どもたち・全国の仲間と共に最後まで頑張ります。

最後に皆さんに三点お願いがあります。闘争資金を作り、運動を高めるために職場・地域で国労物資販売のご協力をお願い致します。そして、政府・ＪＲを追い込むために闘いのバロメーターとも言われる連帯する会加入のご協力も重ねてお願い致します。

三点目は、東京高裁に対する公正な判決を求める二〇〇万人署名の取り組みに対し、二〇〇万人を一筆でも越える為にご協力をお願いします。これからも、ご支援・ご指導をよろしくお願い致します。
(音威子府闘争団家族会 千葉 真貴子)

国労「改革法承認」で臨時大会

厳寒の北海道、札幌、留萌、稚内、音威子府、旭川闘争団激励の旅をした。今回は一人旅ではなく総勢二十九人。私にとつて、一〇〇回を優に超えた訪問だが、闘争団のお母さんたちの表情がさらに輝き、晴れやかさを増しているのに驚かされた。大儀と正義の実現をめざしたたかいつづけることは、人間を内から豊かにすることをあらためて感じさせた旅であった。

帰京後、福岡の筑豊へ。国労支援の地域の激励集会である。妻は一〇年前、故岩井章さんと激励に訪れたことがあるが、私をはじめ。お母さん方とは会えなかつたが、父ちゃんたちは毎日、元氣に行動と活動。国鉄闘争勝利に向け、やはり顔は輝いていた。

国労は昨年八月いらい、「改革法承認」のための臨時大会開催をめぐって論議が展開された。一月の中央委員会で「来年度までに臨時大会を開く」ことが決定され、その後の動きが注目されていたが、国労本部は三日の中央委員会で三月一八日臨時全国大会を開くことを指令した。場所は東京都内で午後二時開会とのことである。

国労本部は「満場一致で承認できる提案を行っていきけるようにしたい」、「これから、解決水準をめぐる動きが始まる。相手側とわれわれとの間には、我々が求める解決水準と隔たりがある。これから本部は、政治の場で国労の要求を主張していく」と述べている。この日私は、北海道にいる。直接、大会を取材できないが、闘争団、家族、支援の仲間とともに見守り、現地からの大会報告としたい。

(編集部)

「新ガイドライン」と「北朝鮮脅威」論(下)

戦略目標は同じ、異なる追求方法

北朝鮮脅威論から卒業せよ

「北風政策」一本やりの日本政府

二月一日高村外相が、小淵訪韓の下準備のため、ソウルを訪問した。高村外相は金大中大統領に会い、その「太陽政策に理解を示した」が、日韓が一致して北朝鮮のミサイルに対処するということでは一致できなかったと、テレビや新聞は報道していた。

その報道によれば、対北朝鮮「抑止」政策を日韓協力して推進しようという高村外相に金大中大統領とそのブレーンは首を縦に振らず、「北にもつともなところがあり、そこを大切にしたい」と答えたというのである。ソウルが北の重火器の射程内にあるという事実もさることながら、金大中大統領は二度と同じ民族同士で戦わない決意であり、同じ思いの北の同族と「対話」を積み上げる方針で臨んでいるのである。威嚇的「抑止」と相互理解を求める「対話」とが一致できないことが高村外相や日本の外務省には分かっていないことを暴露した会談だったのである。高村外相が「太陽政策に理解を示した」と言ったと記者は報道しているが、本気でそう言ったのだったならば、高村外相はその日のうちに手ぶらで帰ってくることはなかったはずである。

アメリカは「硬」「軟」両様

アメリカが朝鮮と外交交渉に本腰を入れたのは冷戦終結から一年ほどしてからである。一九九二年一月朝鮮戦争で犠牲になった米兵の遺骨の引渡しに関する朝米交渉がニューヨークで行なわれた。ここで朝鮮労働党の国際担当書記金容淳と米国務省の政治担当次官アーノルド・カンターが関係改善に合意したのが最初である。米大統領選挙の関係もあって合意内容はしばらく伏せられていたが、それが公式に両国の共同声明として公表されたのは、米大統領がブッシュからクリントンに代わった翌九三年の六月のことである。

その内容は、相互に武力行使はせず、軍事的脅威を加えず、相互に自主権を尊重し、アメリカは朝鮮の統一を支持するという原則に立って平等かつ公正に対話が続けるといふものである。ここで留意して置きたいのは、その合意が共和党のブッシュ大統領時代にできていたこと、そしてそれを民主党のクリントンが大統領になってから公表されたことである。つまり、この朝米合意はアメリカの政界を二分する二つの政党が共に同意したものだということである。

換言すれば、共和党と民主党と政党は違っても共にアメリカ帝国主義の政権の共通基盤である米独占資本が冷戦後の世界戦略の一環として朝鮮問題の平和的解決に同調したといふことである。アメリカには北朝鮮が東ドイツのように体制が崩壊あるいは転覆して南北統一が実現するだろうという期待が強く、武力行使を待たずに問題解決は図れるという態度を採ることでまとまったのが冷戦終結直後の雰囲気というものだった。その後、朝鮮民主主義人民共和国では東ドイツのように体制崩壊が容易に期待できないことが分かっていると、アメリカの独占資本の中に意見の分裂が起きてきた。

中国をはじめアジアの開発途上国をその支配下に取り込むことを目標とした金融独占資本は、IMFや世界銀行などの国際金融機関を媒介に自由化を推進することによって市場制覇を図る戦略に努力を集中したが、アメリカ帝国主義のもう一方の大黒柱である産軍複合体は、兵器市場の維持拡大のために、アメリカの経済侵略に抵抗する低開発地域の民衆のゲリラ的闘争の抑止を図る「低強度戦争戦略」を持ち出すだけでは満足せず、中東の石油資源に絡んでイラクを、またあくまで社会主義を守り通す朝鮮民主主義人民共和国を格好のターゲットに選んで軍事力の優位を保証する「抑止戦略」を前に出してきた。ナイ・レポートとその改訂版「一九九八年東アジア戦略報告」(前号参照)はこの産軍複合体の要求に応えたものに他ならない。

ワシントンの仕組みから言えば、金融独占資本の利益を中心に政策運営に当たっているのが国務省、産軍複合体の利益を基本にしているのがペンタゴンであり、前者は外交政策の中心を「対話」に、後者は「抑止」に置いていると言えよう。アメリカの対朝鮮政策がこの両独占資本の綱引きの間で揺れて今日に至っていることは明らかだ。

国務省とペンタゴンの隙間で

ところで日本の保守政権は、中道勢力も含めて、日米関係中心主義を国是としているのだが、アメリカのどの部分との結びつきを優先するかで自民党の中にも違いがあることは明らかである。日米の経済協力関係を日本帝国主義復活の基礎にするという点では自民党も自由党も同じだが、そのためにペンタゴンの政策に同調しようとする勢力と国務省筋に同調しようとする勢力との間に微妙な綱引きがあることは見ての通りである。改憲論を唱えている勢力がペンタゴン派で同時に「新ガイドライン」の推進に熱心なことは言うまでもない。「北朝鮮脅威」論の先頭に立ち、対朝鮮強硬路線を主導しているのも彼らだ。

国務省筋との密着を追求している勢力は「新ガイドライン」の設定を重要視していることはペンタゴン派と同じだが、彼らにとってそれは経済的摩擦の多い日米関係の安定化、すなわち国際金融政策、貿易政策における日米摩擦の緩和を図るための手段という意味合いが濃厚である。

ペンタゴン筋の情報に偏っていた日本のマスコミが国務省筋の情報にも重きを置くようになったのは、一つにはアメリカと韓国で後者のアプローチが有力になってきたことの反映に違いないが、やはりアジアの経済危機の克服をアジア・太平洋地域のみならず世界の経済の最重要課題とする認識の拡がりがある背景になっていると思う。小渕政権は保・保が手を繋ぐ自・自連立政権で、先に沖縄知事選挙では米軍基地維持のため大田落として狂奔し、今は「新ガイドライン」を保証する「周辺事態に際してわが国の平和と安全を確保するための措置に関する法律案」、「日米物品役務相互提供協定改正案」、「自衛隊法一部改正案」をめざすの参議院対策にあらゆる手練手管を弄し、その雰囲気造りのため「北朝鮮脅威」論を煽っていることは間違いないだろう。

高村外相のソウル訪問は、金大中政権が南北関係改善に心を砕いているのを知ってか知らずか、金大中政権を反北「抑止」戦略に引き込もうとしたものだった。国家保安法の廃棄、対北諜報機関の廃止、コンクリート障壁の撤去を繰り返し要求している平壤からは南の政権への厳しい批判が絶えないが、金大中氏を名指しで批判していないことに注目すべ

きてはなかるうか。

朝鮮半島の住民は北も南も同じ朝鮮民族であり、同族同士の内戦は南北共に避けたいところである。朝鮮半島の南半分を軍事占領しているアメリカも武力で北を「抑止」してその崩壊を促して南に吸収する手荒な朝鮮問題解決は地域的あるいは全世界的市場の安定的支配から考えて現実的ではなく、アメリカの国内世論も考えれば「対話」による問題解決の方がリスクが少ないという認識が各方面で有力になってきている中で、「北朝鮮脅威」論は古臭くなって来ていることに日本の政府も目を向けるべきで、産軍複合体の要求する方向にのみこだわっているのは、国際社会で孤立するばかりであろう。

太田・岩井健在なら

政府の「北朝鮮脅威」論にこだわる背景に日本帝国主義復活を図る軍事大国化の思考があるということであれば、なおさら要注意である。最近あの世に去った太田、岩井の指導する総評が今もあるなら、「新ガイドライン」粉碎、「周辺事態」法案粉碎のゼネスト態勢指令の下で国会の周辺には連日デモの波が押し寄せていることだろう。

労働組合は大企業に雇用されている労働者の利益を代表するだけではその利益さえ守れないことは、資本主義の全世界的リストラと合理化の嵐の中ですます明らかになっている。欧米ではこの労働組合受難時代克服のために労働組合を下部から再建する闘いが始まっていることが、日本の労働組合ナショナル・センターの眼に見えているのだろうか。

(若林 ひろし)

コソボをめぐるクリントンの混迷

再び軍事介入へ

またしてもクリントンは外交のロシアンルーレットをもてあそばさうとしている。領土保全や主権、そして米国の総合的利益を何も侵さないと装って、二〇〇〇―三〇〇〇人の兵士を投入しようというのだ。戦闘が行われているセルビアのコソボ州でのNATOの最大規模の地上作戦に注ぎ込もうというのだ。

米国大統領は言う。明確な使命をもった特殊部隊と鮮明な戦略がなければ、米国がコソボにかかわることはないだろうと。しかし、米国人はかつて同じことを聞いたことがある。一九九五年十一月、ボスニアに軍隊を派遣するにあたっての演説で、彼は米国民にこれから展開する作戦は「明確で限定的で、かつ確実なもの」であると述べた。そして派遣期間は、総じて「一年であり、そうあるべきである」と語った。大統領は彼自身の設定した期限を二度破り、米政府は何の見通しもなく、すでに国民に一〇〇億ドルの負担を負わせた。そして、今や無期限の軍事介入を行おうとしている。

クリントン政権がボスニアでの特殊任務は厳格な軍事作戦になると主張していることもまた取り消されるべきである。一九九五年十一月、ストローベ・タルボット國務副長官は「泥沼に引きずり込まれるような特殊任務」ではない。純粋な軍事行動を行い、その後「国家建設」に入るのだ」と宣言していた。しかし今日、大統領は米軍撤退前に多民族の政治形態と独立した司法制度、報道の自由が創設されるべきだと述べている。ロバート・

C・ビルド上院議員はこの政策は軍事作戦というより「国家建設のように読める」と言っている。「新たな統合民族国家の完成を必要とする処方であり、国家建設とはこういうものだ」というのだ。

※ ストロローベ・タルボットはタイム誌で論説を主に担当し、ブッシュ政権の対ソ連政策を非難し、ソ連への援助を説いていた。クリントン政権では旧東欧政策に深く関わり、またパキスタンの核実験問題では特使として現地に派遣されたりしている。

セルビア人そしてアルバニア人

クリントンは制止がきかなくなっている。「ボスニアの緊張は高まろうとしており、そうならないよう二年（実際には三年）も費やしてきた」のだからコソボの戦争に米軍を送るべきだと彼は主張する。が、それでは話半分である。コソボへのNATO介入はボスニアで維持されてきた平和を瓦解させることになってしまうからだ。

多くのセルビア人は、コソボをセルビアの歴史と彼らのギリシア正教会信仰の発祥地と考えている。事実、コソボはセルビアのNemanjić王朝が一三八九年にオスマントルコに敗れたところであり、セルビアの最も古く、懐かしみ深い聖地の一つである。Peć Patriarchieの故地でもある。ワシントンがコソボの分離を推進していることが明るみに出れば、ボスニアのセルビア人は西欧が反セルビアでことを進めようとしていると断を下すだろう。それはNATOの軍隊を血の報復に止まらず、ただでさえ脆弱なアメリカによる平和を、再び過激化するセルビア国民によって掘り崩される恐れをもたらず。

クリントンは抗争が隣のアルバニアやマケドニアに広がる事態を防ぐために、ボスニア派兵を行うのだと言う。が、これもまた話が半分である。

他にありそうなシナリオは、NATOの介入がはからずもコソボの独立につながっていくというものである。これはバルカンにとって悲劇を意味する。コソボ解放軍(KLA)は、自分たちの目標がユーゴスラビア解体にあるだけでなく、コソボとモンテネグロ、ギリシャ、アルバニアに広がって住むアルバニア人を統一し、大アルバニアを建設することだと、ことあるごとにうそおいている。コソボで成功すれば、KLAは次の目標に移るだろう。だからこそ、マケドニアの外相とギリシャの外相は昨夏、立場の違いを越えて、セルビアへの空爆に反対する共同声明を出したのだ。彼らは爆撃がKLAのキャンペーンに拍車をかけることを恐れたのだ。

アメリカはだれとたたかうのか

最後に、クリントン大統領は「事態が収まれば、コソボにおけるNATO地上軍の存在は、双方（セルビア人とアルバニア人）が戦闘を停止するにあたって、必須のものであったということが証明されるであろう」と述べている。もう一度言うが、これでは話半分なのだ。派遣された米軍は、コソボというまさに毒液があらゆる方向からふりかかってくるへびの穴に陥っていくことになる。

たとえば、NATOがコソボのユーゴスラビアからの漸次的分離を促進しようとするなら、セルビア人はNATOが少数アルバニア系分離主義者と組していると結論づけるだろ

う。コンボに展開される米軍は、セルビアの政府軍や非正規軍そして人民による偶発的な攻撃にさらされていくだろう。一方、NATOがユーゴスラビア内での独立的地位を利用してコンボの独立を押すことが明らかになれば、米軍はよりいっそう独立への意欲を増したKLAに包まれていくと気づかされるか、現在進行中のゲリラ・キャンペーンの戦略的盾として利用されることになるか。最も悲惨な光景は、ベオグラード政府もKLAもNATOの存在を受け入れないときに訪れる。このとき、米国兵士はどちらとも闘っていることを自覚させられることになるのだ。

コンボ派兵は抜け出すのに困難な落とし穴がいくつもある危険に満ちている。今からでも大統領はそこに気づくべきである。米国民は今後の危険に関する明確な説明と、このような派兵のもつ意味について連邦議会における活発な討議を求める権利がある。軍隊が派遣されてしまった後では取り返しがつかないのである。

※「タイム」(九九年二月一五日号)にSpies Like Usという記事があり、Stratforという機関のホームページに入りました。情報の宝庫です。たまたま、兵庫県明石市の妹の家に泊まる用事があり、夜中にインターネットで見る事ができました。ニューヨークタイムズのホームページには日本からは入れません。北朝鮮やアフガニスタンからでも入れるのにです。日本人は情報を相当に操作されています。ニューヨーク市が生物・化学兵器によるテロ対策を始めたという記事に入ろうとして分かりました。自分の家でもインターネットを使えるようにしていきたい。(H)

ドイツのようなり方見習え

— 京都総評が失業者にアンケート —

ハローワーク前で

反失業の九九年春闘の闘われている中、京都総評は二月二十五日朝からハローワーク前での失業者に対するアンケートを行いました。

ほとんどの人が呼びかけピラとアンケート用紙を受け取ってくれ、その中の多くの人が一生懸命アンケートに記入してくれました。私の行った京都七条職安でも九十三枚、西陣職安で百六十、伏見で百二十六と、合計で三百七十九枚の回収ができるという高回収率でした。求職者の切実さが何われます。

年齢は五十代百十人、六十代は百一人で一番多く、リストラ合理化で中堅幹部が狙われていることと年金・社会保障制度の貧困さを現しているようです。求職理由は会社都合がやはり百四十七人でトップ、定年も六十人で二番目で、公的年金制度の劣弱さのため、定年後も働き続けねばならないが、求人少なさを示しています。雇用形態は正社員が二百七十二と圧倒的で、会社の仕事の中心を担ってきた幹部社員がほとんど首になっている様子がわかります。

低く押さえられる求人年齢

業種はサービス業、繊維・機械金属以外の製造業、繊維、機械金属、卸売り・小売・飲食店が五十人前後で並んでいます。まんべんなく不況リストラの波が襲っています。求職

開始後の期間は三十日から六ヵ月が百十二人で一番多く、六ヵ月から一年以内が八十八人、一年以上も五十七人と厳しい求職の情勢です。

「何が求人と合わないか」との設問には、年齢が百七十六人と断然トップで、求人年齢が相当低く押さえられています。

現在の収入確保は、「預貯金のとりくずし」が二百二、雇用保険が二百、「家族の収入」が百十七、アルバイト三十の順となっておりますから、働ける家族がなく、預貯金と雇用保険がなくなったあとがたいへんです。アンケートを取っているときも「(大阪の)西成にも行ってきたが仕事がない」と、家のない人が語りかけてきました。いわゆる「ホームレス」の人も京都でも急増して四条通り地下通路はたいへん多くなっています。「この頃の『ホームレス』の人は背広着てネクタイしてちゃんとしている」とよく言われますが、それだけ失業者が急増していることとあわせ、寒い冬をしのぐため百貨店などで休憩・時間つぶしをするためともいいます。

「要求」では、「仕事・再就職口の確保」、「住民税の税金の免除基準の緩和」、「失業保険の日数の延長」が二百台、百台、百台と続き(一人三つの要求)、「失業給付の水準の引き上げ」六十九、「解雇の防止や解雇規制法の制定」六十四、「職業訓練の機会拡大」五十八と続いています。

気持ちにピッタリの調査内容

私の行った七条職安前で朝八時半アンケートを始めると、すぐに失業者が駆け寄って来ました。「政治が悪い。税金の使い方が間違っている。地域振興券なんてなんだ。この前も共産党のだけそれがしゃべっていたが失業者のことなんか何も考えていない」。

しばらくすると昔の知人とぼったり。元私と同じ総評のオルグで、定年退職して雇用保険の失業給付を受けに来たとのこと。三、四十分昔話に花咲かせ、「このビラとアンケートの内容はここに来ている人の気持ちにぴったりのいい取り組みですね。こういうのを何度かやってるんですか?」と。「中はいっぱいではあるけど、思ったほどあふれかえるほどではないですね」と聞いたら、「来ても仕事ないからもうあまり来なくなつたかもしれないですね。私ができる『一般事務』で見てみたら、いっぱい貼ってあるけど(求人は)一つだけでしたよ」と。最後に仲良く名刺交換をしたら、連合の地方組織の役員をこの前までしていたとのことでした。

雇用政策への貴重な意見

アンケート末尾の意見自由記入欄では切実な生の声が真剣に寄せられ、「とにかく再就職がむづかしい。一件の求人先に対して私たち五十歳代が二十〜三十名応募する。確率は二十〜三十倍である。酷しい状況が続いている」(男五十代)。「充分役立つ仕事ぶりに自信をもつていても四十五歳くらいまでが多く、とても心外です。年齢が多くて良い場合も大いにあるのです」(女六十代)。「不況の中、会社が生き残るためにはリストラは不可欠かも。でも実際に我が夫にふりかかると恐ろしい。そうになったらこんごう生計を立てるべきか考える」(女三十代)。

「消費税と経済政策の失策で消費の悪化が失業を多くし、厚生年金他年金等の不安定を

将来に対しての希望がもてなくなっている他多大の難題がある」(女六十代)。「不況を理由に労働条件が悪化してきているように思えます」(女四十代)。「障害者にもたくさんの就職先あっせん」(女五十代)。「五十歳をすぎると仕事がない。年齢制限をどうかしてほしい。あつていったとしても条件が悪くとも勤め続けられる状態ではない」(女五十代)。「不況を理由に企業がパートやアルバイトを増やし社員並の労働をさせ都台で解雇させる、今後こうゆう体質が定着することがないよう同会社社に一年以上勤めた者に対する保護と社員への登用の法律化」(女四十代)等々。

太田・岩井のような人必要

また「給付して頂いている立場で、その給付金はほぼ横流れで前年度分の府市民税、それと現在の年金、健康保険の税金に消えていきます。給付金類というより税金の重荷をきつく感じます(収入の少ないものにとつて)」(女二十代)というのはい様な悲鳴で、緊急に対策せねばならない矛盾点・課題と思われまます。

そして「国政(政治家や官僚、市議会、府議会など政治にとりくむ人)がもつとこれからの日本をどうしていか明確に表明すれば経済も回復し雇用も増える。政党は支持団体をもたない様にすればもつとよい」(男二十代)という政治への不満・期待と合わせ、「昔の総評のような対等な話合いのできる労働者代表になつて欲しい。民主党×、社民党土井は何の力にもならない。太田議長、岩井議長(ママ)の様な人が必要。ドイツのやり方を見習つてほしい」(男五十代)というような労働運動に対する大きな切実な期待も寄せられました。

(京都総評オルグ・稲村 守)

言語道断！ 公務員ヘルパー切り捨て

― 神戸市六五名のを職種転換へ ―

賃下げ強行、神戸市保健福祉局が決定

在宅介護ネットワークは、来年四月から実施される介護保険については「保険あつてサービスなし」という批判をしてきましたが、全国的にも公務員ヘルパーによるサービスを民間に切り替えていく動きが強まっています。介護保険法では在宅施設サービスを民間主導(市場原理)で行うことを予定していますが、介護報酬の額が来年の二月ごろに確定することから、民間企業などは模様眺めの状況で、サービス基盤は不十分と言つてよい状況にあります。

神戸市保健福祉局は、市職労に対して「介護保険導入にかかわる保健福祉局の考え方」として「福祉部ヘルパーによる事業にかかる経費は介護報酬でまかなうことが困難である。福祉部ヘルパーによるサービス提供は平成十一年度末をもつて行わないものとする」と、公務員ヘルパー制度の廃止を提案しました。同市職労はことし一月二十二日に一時間ストを構えて交渉しましたが、廃止反対の声は届かず妥結してしまいました。

県下の明石、高砂の公務員ヘルパーについても介護認定調査員に職種替えという方向になつていきます。民間のサービスが充実しているならいざ知らず、不足という状況の中で福祉資源としての公的ヘルパーを切り捨てることは言語道断と言なければなりません。

神戸市の公務員ヘルパーは事務職への転任ということで動揺、不満、憤りの気持ちを持っています。二人のヘルパーさんにそれぞれの思いを手記にして頂きました。

私たち六五人のヘルパーの生活はどうなるの

十二月二四日、当局は十一年度末をもって介護保険の導入に伴い介護サービスの環境が大きく変わることから、福祉部ホームヘルパーによるサービス提供を廃止、居宅介護サービス事業者居宅介護事業者の指定は受けないと言われました。以前より予想されていたことではありますが、現在訪問している人たちの今後はどうするのか、私たちヘルパー六五名はどうなるのか、なんの回答も出していません。

当局は対象者を見に行ったのか！ 現在訪問している人たちの中には、介護保険のモデルケースで自立と判定された方、介護保険対象外の方、役所のヘルパーということで受け入れてくださったっている方がおられます。当局は今回の決定をする前に一度でも見に行ってくれたのでしょうか。

私たちは直営ヘルパーとして自信と誇りをもって仕事をしてきました。きちんとした答えをだして頂かなければ納得出来ません。

これからこそ必要なはず 私はヘルパーになってまだ三年目ですが、ヘルパーの仕事は掃除、洗濯、炊事だけではありません。医学的知識・介護技術・心のケアなどさまざまな専門知識を必要とされます。イヤな事つらい事もたくさんあり大変な仕事ですが、ヘルパーになって良かった、この仕事が好きですといえるようになります。介護保険が導入になり、これからヘルパーが必要というときにヘルパーをやめなければならぬのです。私たちが何を行っても当局が撤回することはないと思いますが、私は最後まで直営ヘルパーとして責任を持って頑張りたいと思います。

営利主義で本当に役割はたせるの

介護保険の導入に伴い、公的ヘルパーを廃止するというのですが、民間業者は営利主義ヘルパーは大多数がパートという状況で、今まで公的ヘルパーが担ってきた役割を果たしてゆけるのでしょうか。

「役所のヘルパーさん」という安心感 たとえば、「あんたは役所から来てくれているから安心や。」とヘルパー個人の力量だけでなく、行政が支えてくれているという安心感で、精神的安定を保っているケース。近隣の人にもボランティアにも扉を閉ざしていた人が「役所から来てくれるなら」と、公的ヘルパーを受け入れることにより福祉サービスをスムーズに利用出来るようになった段階で、振興協会へ渡すという「慣らし」の役割、精神疾患やアルコール依存症、性格異常など処遇困難で公的ヘルパーに回されてくるケースは、身体機能的には自立とみなされ自費でしか介護サービスを受けられない場合や、認定されても直接に援助するヘルパーからは敬遠され結果的にサービス受給出来ないことも予想されます。

ヘルパー需要の掘り起こしこそ 公的ヘルパー派遣を要する潜在しているケースの掘り起こしがなされないまま現在の派遣ケースのみを算定。振興協会や民間業者へ無理矢理割り振り、公的ヘルパーが廃止されても問題はないという当局の考え方は納得出来ません。以

前仮設や単身高齢者の支援をしているボランティア団体の代表者から、市は本来行政が行うべき援助内容までボランティア任せにしているという苦情を聞かされました。

昨日の新聞紙面にも弱者への配慮がボランティア任せだと同内容の市民の投稿が掲載されていました。震災を受けた都市として、この不況下にあっても最低ラインの弱者は行政が守るといふ姿勢は、市民の信頼を得ると思います。他都市と横並びに公的ヘルパーを廃止し弱者を切り捨てるのではなく、ぬくもりのある市政としての福祉を実践してほしいと思います。

公的ヘルパーだからできる迅速な業務 またヘルパーの業務については現在福祉部に配属されていることでCW、老人身障担当、保健婦さんなどとケース検討出来たり、専門知識を吸収出来ることにより援助レベルを向上、処遇困難ケースへも迅速に対応出来ているのだと感じています。

公的ヘルパーの業務は、身体的精神的に厳しいものがあり、自身について言えば腰痛や腕の痛みをこらえながらの作業や感染に悩んだり、精神的にストレスを抱えこんだこともありです。これらを乗り越えてこられたのは、市の職員として身分保障されているからだと日々痛感しています。

以上のことから、現行の業務形態を継続しての公的ヘルパーの存続を可能にする方法を探してほしいと強く希望します。
（『在宅介護ネットワーク通信』、三月一日号）

矛盾多い介護保険

— 保険料は高まり、福祉水準の低下必至 —

さまざまな問題点をもつ介護保険制度。スタートまであと一年。運動をどのようにすすめたらよいのだろうか。相談に茨城の婦人会議を訪ねた。

婦人会議茨城県本部の事務局は水戸市梅香の労働福祉会館玄関右手の目立つところにある。うち外に可愛らしい看板が二つ。無公害の粉せっけん化粧品を宣伝する。ひかえめながらねばり強い運動で、県内の女性の心をつないでいる。

ドアを開けると、ケースの中に商品がずらり、パンフレットや書籍もある。女性ばかりが四人で働き、県内各地に出張販売もする。婦人会議の運動を財政面からも支えている。

四人は朝の仕事を手早くかたづけ私のお話をきいてくれた。いつの間にか介護体験に。ヘルパーさんのこと、ながく寝込んだ両親の心の動き等々、とめどもなく語られ時間を忘れた。介護が、人と人のかかわりあいの問題で、簡単ではない。心の問題もある。福祉は人なり。これは厚生省も認めていることだが、保険と結びつき、「介護」を契約で買うことになる。しかも、意思能力が十分でない人が、そのサービスを受けることにもなる。人と命を大切に、ゆとりある心温まる人間関係の上にあるものでなければ成り立たない。

しかし今回の介護保険は憲法が制定されて以来の戦後五〇年の社会保障・社会福祉を破壊していくもののようにも思われる。茨城の県庁所在地水戸ではどうなっているか。聞いてこようということになった。県事務局長の矢田部さん、水戸支部の関根さんともに水戸市役所、高齢福祉課にある介護保険準備室に電話して指定の時間に訪ねた。

水戸は人口約二四万強。要介護申請推定数は約三八〇〇〜四〇〇〇人。訪問調査は市の

職員でなく、外部委託。民間のケアマネイジャーが行うということだ。委託できるものは全部委託するのが市の方針であり、あとは県の監視と、准公務員の守秘義務にまかせる。保険料や利用料は厚生省が提示している額で…と。これまでの高齢福祉の水準を維持できるか、横だし、上乘せのサービスはどうなるかに関しては、国が新しい補助制度を検討していることだし、七月に二回目の事業計画策定委員会を予定し、秋までには全体の概要が決まるという。厚生省に「忠実」。市の地域的特殊性は考慮されるのだろうか。

それにしても準備室の人数は四人。これのできるのだろうか、不安になった。非公開で行なわれた介護保険事業計画策定委員会の討議内容についてたずねたが、私たちに見られまいと大奮闘。情報公開要求が出ればだすというのだ。公開のところも多いのに…。新潟市では、傍聴者にも議題、資料が配られ公開だ。東京渋谷の委員会は昨年八月から今年二月までに四回おこなわれた。傍聴者に対する議題、資料等の配布はないが、三日もすれば、討議要旨も合わせて、区役所の資料コーナーに並ぶ。自由に閲覧でき、希望があれば一枚一〇円でコピーもしてくれる。もっとも委員会が設置されていない市町村は九年一〇月現在で六七・五％。全国三二五市町村のうち未設置が二一九六市町村というのだ。あるだけ良いのでは？と言うのが実態のようだ。

介護保険料は、厚生省で討議を重ねれば重ねるほど高くなる。昨年十二月の医療保険福祉審議会老人保健福祉部会で確認され、更新された保険料と利用料のめやすは左記のとおりだが、厚生省は「第一号被保険者の介護保険料の保険料額の相違の具体例」「施設の種類のとのバランスと保険料(例)」として二四四〇円から五四七六・四円までの十三のケースを示し細かなデータをそろえている。見ると介護保険料はサービスが充実すれば高くなり、また要介護度の高い者が増えれば高くなる。「北海道北部の浜頓別や中頓別では、特別養護老人ホームが充実しているため七〇〇円以上になりそうだ」と新聞は報じている。こうした状況で来年四月、高い介護保険料の支払いと福祉低下がセットでスタートすることになる。公務員ヘルパーの身分も不安定になっている。納得できないことが多すぎる。全国町村会は実施延期を求めているが、私も「延期を！」と叫びたい。(滝野 嘉津子)

資料1 第一号被保険者(六五歳以上)の所得段階別保険料の設定方法(案)

生活保護受給	世帯全員が住民税非課税かつ老齢福祉年金受給(基準額×〇・五)	一三〇〇円
世帯全員が住民税非課税(基準額×〇・七五)	一九五〇円	
住民税本人非課税(基準額×一)	二六〇〇円	
住民税本人課税(被保険者本人合計所得金額年二五〇万未満)(基準額×一・二五)	三二五〇円	
住民税本人課税(被保険者本人合計所得金額年二五〇万以上)(基準額×一・五)	三九〇〇円	

※基準額は市町村ごとの介護サービスの水準の違いや物価の伸びによって変化する。

資料2 要介護度と支給限度額

在宅介護(サービス限度額II月額)

要支援・虚弱 日常生活能力は基本的にある。入浴・衣服着脱などで週数回の介護が必要(六万円)
要介護I・軽度 立上りや歩行が不安定。衣服脱衣、掃除などで毎日一回介護が必要(一七万円)
要介護II・中度 起上り自力で困難。食事、排泄、入浴などで毎日一回の介護が必要(二〇万円)
要介護III・重度 起上り、寝返りが自力でできない。毎日二回の介護が必要(二六万円)
要介護IV・最重度 生活能力かなり低下。意志疎通非の人も。一日三〜四回介護必要(三十一万円)
要介護V・最重度 生活全般、部分的又、全面的介護に限る。一日五回以上介護必要(三十五万円)
※サービス費の一割が自己負担。自己負担額が払えなければサービスが受けられない。従って()

の金額はそれぞれゼロからその限度額までとなる。ケアマネイジャーは「あなたはいくら払えますか」と確かめ介護プランを立てることになる。要介護者の必要度からではなくまずお金。不合理だ。

施設介護（月平均のサービス額）

特別養護老人ホーム（三十一万五千元）

老人保健施設（三十三万九千元）

療養型病床群（四十六万一千円）

※いずれも平均的な負担額。一割が自己負担。一九九八年度価格。別途、日常生活費が必要となる。

◆投稿◆

一人で百回動くと自覚したときから…

五・二八以降の国労の困難、混迷は一体どこからきているのでしょうか？ 私たち（労働者）は、なぜ一回の負けにこうまで動揺するのでしょうか？ 負け続けても闘い続ける力をなぜ作る努力をしないのでしょうか？ 当地でも五・二八以降、横目で見えていた連中が、ここぞとばかりに終結、終結と声高に叫び、改革法承認を押し付けてきます。

二〇〇万署名や連帯する会の取り組みも数々の妨害がありました。私、そういう幹部の本部、地区センターに毎日足を運び言葉でなく行動で訴えました。「まず署名を書いてから批判して下さい」と、そして「下部組織の取り組みを認めて下さい」と、ある組織には、一二回足を運びやっと取り組みが出来ました。国鉄闘争を否定している人々の共通していることは、この闘いが一般組合員の目に写る（正直に）ことの恐ろしさのような気がします。労働組合の理念を売り、一般組合部にとって、国鉄闘争は本当に邪魔なんだとつくづく感じました。

それでも、署名は三万筆を数え団体も四百筆を越えました。私はこの一二年一人で何が出来るのかを考えている間は、まったく何もできませんでした。一〇〇人が動いて一日でできることを、一人で一〇〇回動くしかないと自覚したときから、少しづつ運動が作れた気がします。いづれにしても、今日の国労の現状は、当事者として傍観するわけにいきません。滝野さんを初め多くの共闘の仲間に応え今こそ闘争団の一人一人が自らの一二年を重ね、理屈抜きの思いを国労に返して闘いの戦線を整備する時だと思えます。繰り返しますが「負け続けても闘い続ける力」を持ちたいと心からそう思います。 (A)

◆読者からのおたより

「嘆き節」をやめる 年末年始は読む方が混乱、しかしやっとなれをとりもどしました。ほとんど孤立して生きた私にとっては国労闘争団の方の闘いには頭が下がります。私もがんばって「嘆き節」をやめます。 (東京・S)

編集部より お身体いかがですか。闘争団の仲間力づけられると思います。

仲間が転勤 一部減らしてください。一部は拡大用にと職場の人に無料で配っていたのですが、横浜に転勤が決まりました。私は四月一日で退職になります。石油業界も規制緩和で弱肉強食。特定疾患の私は転勤できません。 (石油労働者・K)

編集部より 退職、さびしいですね。しかし現代って何だろう。

毎回楽しい 毎回面白く拝読。励まされたり、残念に思ったり。ご健闘祈ります。 (えひめ・M) 編集部より いつも励ましのおたよりありがとうございます。いよいよこれから、私も微力ですががんばります。

夫たちを支える！ 何年かぶりに旭川集會に参加して来ました。座っていて、十二年前の悔しさがこみ上げもう一回家族会を復活させ、ただ生活に追われる日々ではなく現状を踏まえ焦らず学習会や交流会等しながら夫達を支えて行けたら良いと思えました。また、お会い出来る日を楽しみに、暖かくなったら是非遊びに来て下さい。お体を大切に (稚内・田中廣子)

編集部より 「カニ・ラーメン」おいしかった。みんな大感激でした。さらにお元気で。